

U・ジョイント部ラバーブーツとホースバンド

関連記事

クリメカHPのネタ帳 # 1 2 1

スイングアーム・フランジ形状とオイル漏れ

<http://crimeca.jp/box/121.pdf>

／5－／7（1969－1980）までのモデルではオイルが滲むとってラバーブーツ固定のホースバンドを締め込むと後方にずれていくだけで増し締めできず改善しないことがあります。

1985年からのモノサス・モデルでも片持ちスイングアームを強化するため鋳造だか鍛造だかのガセットを補強として使っていますがブーツの接触部分は機械加工もされていなく素材のままです。表面に凹凸はありますが強く締め付けるとホースバンドが逃げていくのは相変わらずです。

ギアボックス側のラバー接触面は機械加工されていてブーツがずれないように加工されているのでオイル漏れもほとんど発生しません。

工場ラインや全バラで組付ける場合は脱脂されていて、また新品のラバーはテンションがあるため密着力が強く、ずれることはあまり無いようです。部分的な分解やブーツの交換などでオイルが残っている場合やブーツを再使用する場合は脱脂が不十分なのでオイル滲みが発生することがあります。

専用ホースバンドはラバーブーツの全周に均等にトルクが掛かるようにスリッパが設けられているため皺にならないようになっています。しかし後方にずれてしまったり、再利用でテンションが落ちている場合は皺が縞り空間が出来てオイルが出てくる場合があります。工場ラインでは真下に締め付けネジが来るようレイアウトされていますが一度外したのものなどでは皺ができてオイル漏れに発展しないよう真横に移動させているケースもよく見ます。

ヒビも穴も開いていないのにオイルが滲む場合はネジ部分を横に持ってきて、皺がよってもオイルが出て来ないようにして様子を見る方法もあります。

この作業で改善しない場合はブーツに問題があるかスイングアーム側に問題がある可能性があります。

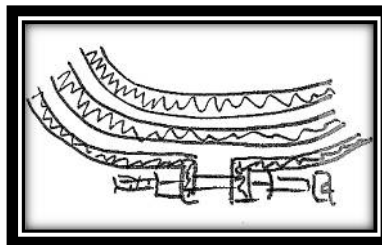
純正のラバーブーツでも極圧剤などの高級添加剤が入っているギアオイルはゴムを劣化させるものもあるようですので注意が必要です。



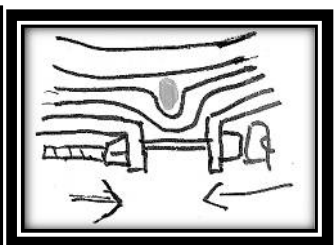
ホースバンド



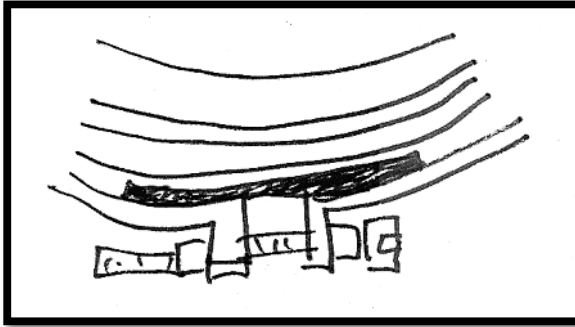
均等に締め込めるように



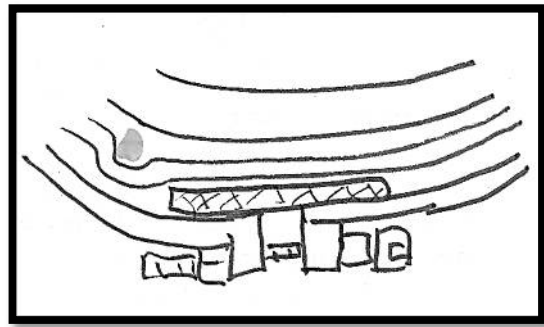
スリッパなし



隙間が出来ることも



スリッパ付き



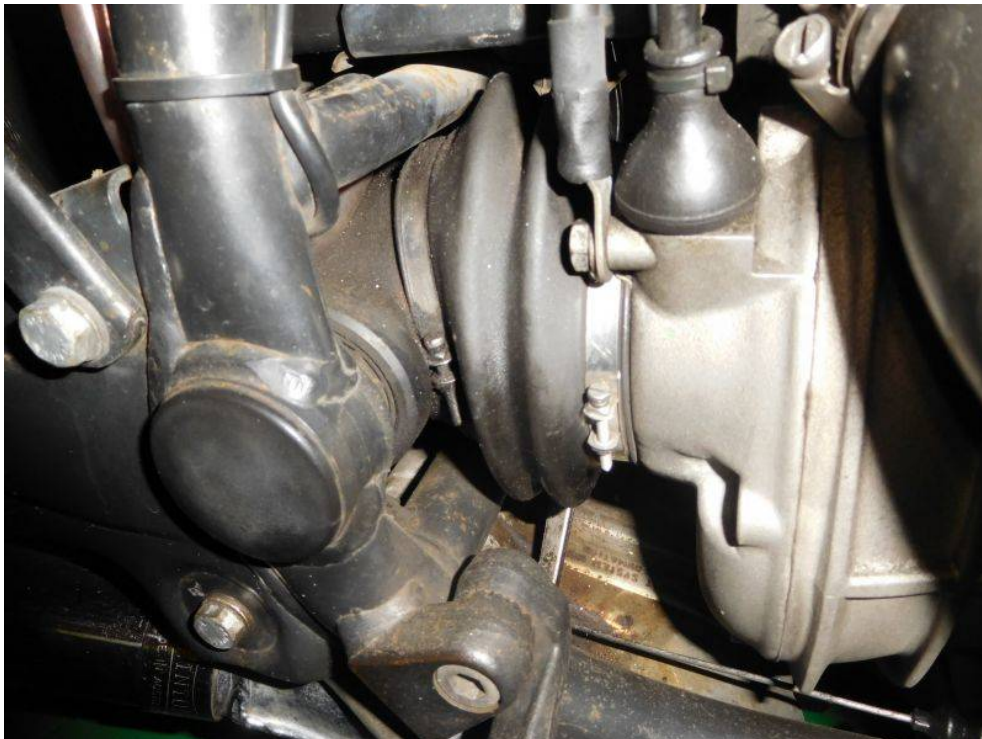
脱脂が出来ていない／伸びていると皺も



モノサス用スイングアーム



表面は凹凸していて滑り難いようですが、、、



真上に十分なスペースが無いので真横の位置で固定

CRIMECA